

伊豆長岡スタディー・ツアー

三溪さんの別荘「南風村荘」の跡をたずねました

横浜から早朝バスで出発。途中、熱海の「起雲閣」（旧根津嘉一郎別邸）に立ち寄り見学しました。三島で昼食となり、早速ゲスト3名（藤本實也さんのご子孫の塚原久子様、萩原慶子様、漢詩分科会の講師鄧捷先生）の方たちよりお話しを伺いました。伊豆長岡では、「伊豆の国パノラマロープウェイ」で葛城山頂上に立ち町を一望、駿河湾の先には富士山が見えました。



旧根津嘉一郎別邸「起雲閣」



ゲストを囲んでお話を聴く



葛城山頂上にて

次にこの旅の最大の目的、原三溪の別荘「南風村荘」の跡へ向かいます。跡地には現在新しい住宅が数棟並び、面影は何もないのですが、ここで驚きの人物に出会いました。別荘の前に住んでいる杉山栄一さん（86）です。なんと三溪さんにお会いしたことがあるといいます。大正15年生まれの杉山さんの抜群の記憶で次々に語られる南風村荘のこと、別荘で過ごす原家の人々の様子、ここで『三溪翁伝』を執筆した藤本實也さんのことまで、皆興奮して聞き入りました。たしかに三溪さんがここにいたんだとそれぞれが心のなかで思い描くことができました。



原三溪翁に会ったことがある人に初めて出会いました

杉山さんを囲んで皆で記念写真をとりました。「網走監獄」のTシャツに地下足袋の杉山さん、最高！



（左）杉山さんの後姿



（右）三溪翁の別荘「南風村荘」の跡地で杉山さんと記念写真

翌日は韮山の江川邸の見学と韮山城址に登り、最後に反射炉を見学しました。

とてもいい天気で富士山が一日中くっきりと私たちに姿を見せてくれました。三溪の漢詩「南風村莊雜吟」にある「名山我を導き来る」というのは富士山のことなのだと実感させられ、「山長（とこしえ）に碧（みどり）なり」そのままの景色を堪能しました。

現地を訪れて三溪さんの気持ちにふれることができました。



(左) 江川邸



(右上) 韮山城址

(右下) 反射炉



南風村莊雜吟
原三溪

逐暖遊南豆	名山導我來
南風吹島角	一夜萬花開
山村桃已發	處々散黃牛
歸兮山長碧	泉温隨處流
東隣買黃犢	西屋賣新桑
只箇閑夫子	出門立夕陽
古城秋艸色	一笛夕陽殘
蕭條英雄業	不如牛背安



バスの車窓から富士山を望む